

2021年春

# 恵庭に鶴岡学園の

## 清く、正しく、雄々しく進め

## 「未来を拓く真の実力と豊か

### 学校法人鶴岡学園の歴史と 建学の精神について

学校法人鶴岡学園は、食料の乏しい戦時下にあって、食生活の改善と栄養指導の必要性を強く感じた創立者の鶴岡新太郎・トシ夫妻により、昭和17(1942)年に「北海道女子栄養学校」として設立されました。その後、昭和34年に藤の沢女子高等学校、昭和38年に北海道栄養短期大学、昭和45年に附属幼稚園、平成11年に北海道文教大学外国語学部を設置。平成15年に人間科学部健康栄養学科開設以降、同学部に理学療法学科、作業療法学科、看護学科、こども発達学科を整備し、2学部6学科4研究科を有する大学へと発展しました。「清く、正しく、雄々しく進め」という学訓のもと、これからの時代をリードする人間性と社会性、国際的な教養や知性をそなえた、専門的人材の育成をめざしています。そのため、実社会のニーズに応える「実学」を重視し、世界の人々の幸せに貢献する総合的な人間力、老若男女の健康を支え育む実践力、さらには地球全体の未来を切り拓く無限の力を培うこととしています。



### 渡部学長が語る 文教大学と恵庭市

少子化が進む中、2021年4月に、国際学部の設置、附属高等学校の恵庭キャンパス移転、認定こども園北海道文教大学幼稚園新設など、大きな変貌を遂げようとしている学校法人鶴岡学園北海道文教大学の渡部俊弘学長にお話しをお伺いしました。



わたなべ としひろ  
渡部 俊弘 学長

1952年日高管内門別町(現日高町)生まれ。東京農大農学部卒業後、79年同大大学院の修士課程を修了。2000年同大教授に就任し、14年同大副学長に就任。

18年から北海道文教大学学長。博士(農芸化学)。趣味はスポーツ観戦と読書。

Profile

——— 学園の拠点を恵庭市に移された背景についてお聞きます。(聞き手 ちゃんと編集部 伊藤)

移転にあたっての道筋を考えたときに思ったことは、恵庭市の特徴として、恵庭駅のある市街地と恵み野駅のある新興住宅地、そして島松を中心とした農村地域が良いバランスで結ばれていることでした。ガーデニングや読書環境も整っており、大都市ではできない7万人規模のまちだからできる取り組みは、非常に魅力的であると考えます。

——— 御校は様々な団体・組織と包括連携協定を結ばれていますが。

恵庭市の持つポテンシャルをお借りして、本学の教育理念の一つ、実社会のニーズに応える実学を重視した結果です。大学では学べない様々な経験は、学生たちにとって有意義なことです。

——— 恵庭市民へのメッセージなどございましたらお聞かせください。

学園敷地内は基本的に入場や通行などに規制はありません。図書館もどなたでもご利用になれます。一層の学園開放を推進するため、今後も校舎や花壇の整備など、市民から愛される場所づくりを進めていきます。

## 学校法人 鶴岡学園

北海道文教大学 代表(総務課) 〒061-1449 恵庭市黄金中央5-196-1  
TEL.0123-34-0019 FAX.0123-34-0057 do-bunkiyodai.ac.jp